

外国人児童生徒等の教育に関する有識者会議<資料>

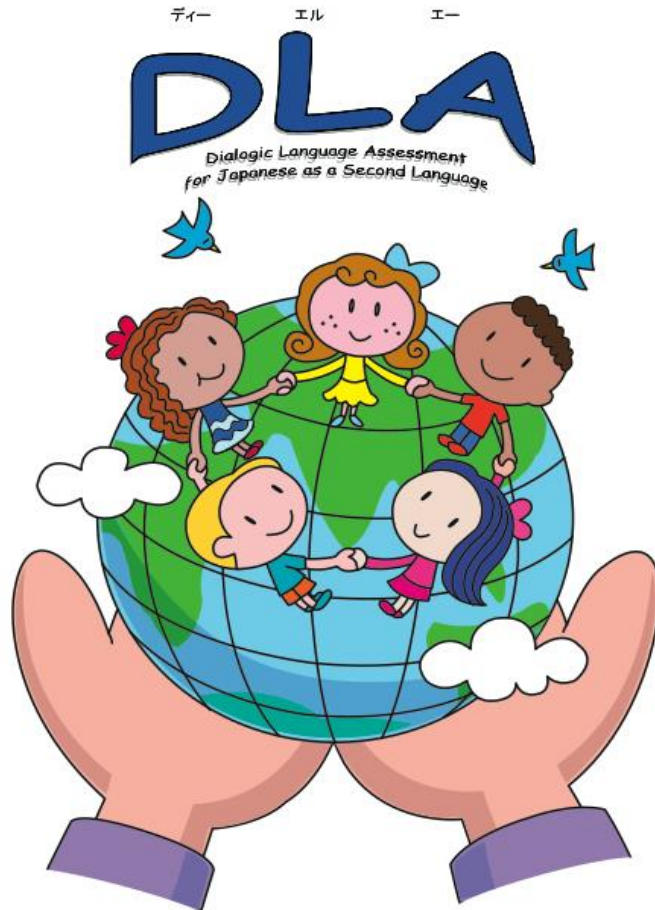
日本語能力の測定方法と 指導への生かし方 —「DLA」の活用を中心に—

伊東祐郎
(国際教養大学)

2019.11.26

◆外国人児童生徒の総合的な学習支援事業◆

外国人児童生徒のための
JSL対話型アセスメント



文部科学省初等中等教育局国際教育課

DLAとは？

- ・対話型 (Dialogic)
- ・言語 (Language)
- ・アセスメント (Assessment)
for Japanese as a Second
Language

CLD児のためのJSL対
話型アセスメント

開発に先立って: 日本語能力の評価判定時に困っていること

- 会話力があっても、学習言語がどの程度身についているかわからない。
- 観察からの評価のみで基準がなく不安である。
- 日本語力の判断が担当教員任せで共有できていない。それで大丈夫か不安。
- 日本語指導の目標や到達レベル、指導終了の目安がなく、指導に苦慮している。
- 日本語能力の判定の仕方がわからない。

児童生徒の指導と学びの実態

言語領域	運用領域-生活-	運用領域-教科-
平仮名の読み書き 片仮名の読み書き 漢字の読み書き 文法	聴解力 読解力 口頭表現力 文章表現力	聴解力 読解力 口頭表現力 文章表現力
文法規則 【学習活動】 教師から児童生徒への 知識伝達 ⇒暗記を中心とした学習	文化的・社会的文脈 【学習活動】 児童生徒ひとりひとりが 主体的に参加 児童生徒の自律的・能動的活動 ⇒やりとり中心の学習	教科にかかわる系統的 知識・領域化された知識 【学習活動】 児童生徒ひとりひとりが 主体的に参加 児童生徒の自律的・能動的活動 ⇒創造的な学習
紙筆テストで測定	紙筆テスト+DLA	紙筆テスト+DLA

教育評価の目的と機能

- **診断的評価** (diagnostic assessments)

入学・編入時等、授業開始前に学習の前提となる日本語力や学力、生活経験の実態を把握する

- **形成的評価** (informative assessments)

指導・学習過程においてねらい通りに進行しているか達成度と問題点について把握する

→指導の改善・見直し

- **総括的評価** (summative assessments)

単元・学期・学年末に実践の成果から目標達成度を把握する→修了・進級・進学 of 判定

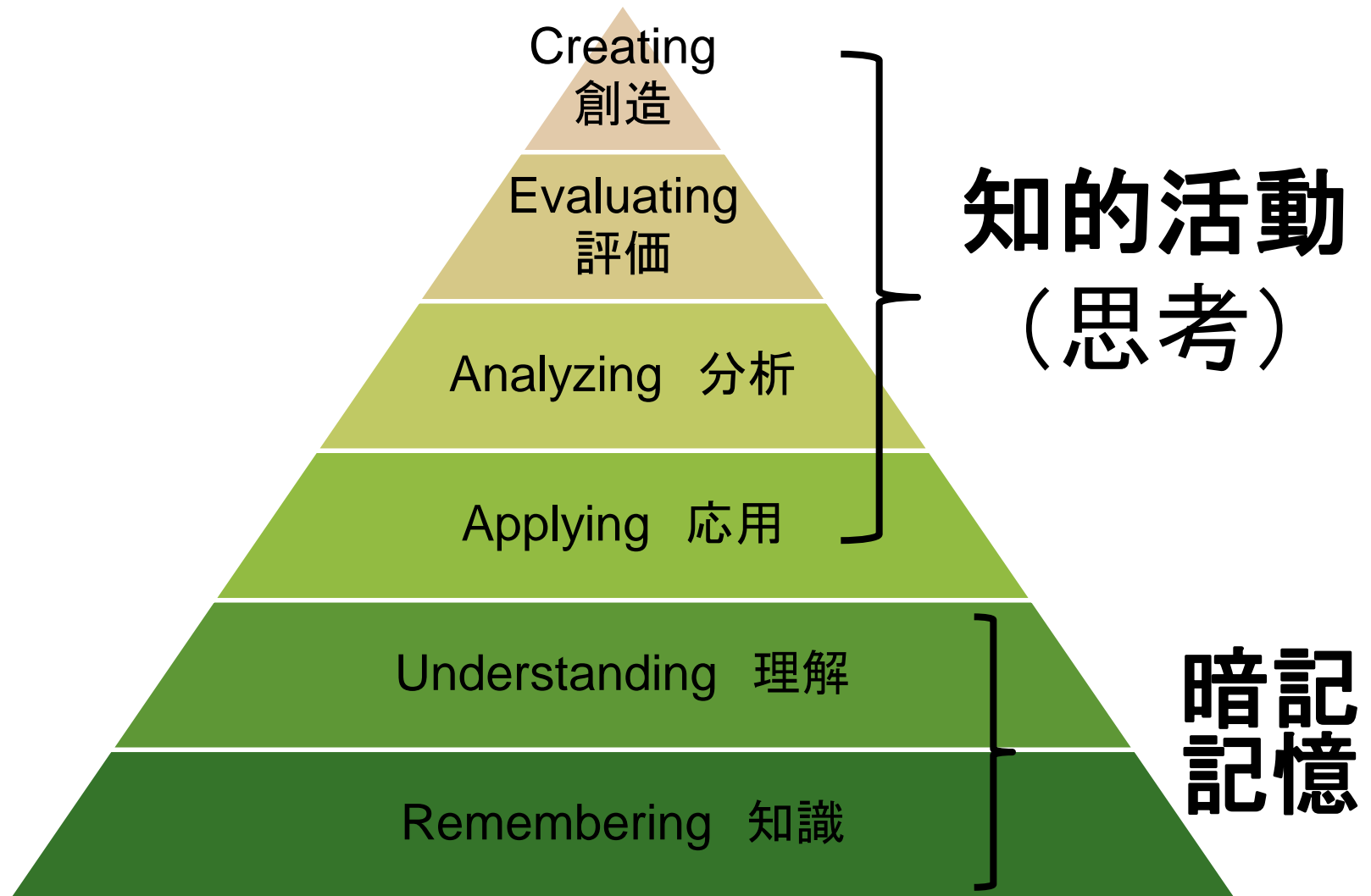
DLAをより理解するために……

- DLAはどのような子どもに対して開発されたものですか。
- DLAは「どのような子どもに」「どのDLAを」実施するのがいいですか。
- DLAは対話型ですが、なぜ「対話型」ですか。
- DLA「実践ガイド」「診断シート」はどのように活用するものですか。
- DLAには2種類の「JSL評価参照枠」がありますが、それぞれの「違い」「活用方法」は何ですか。

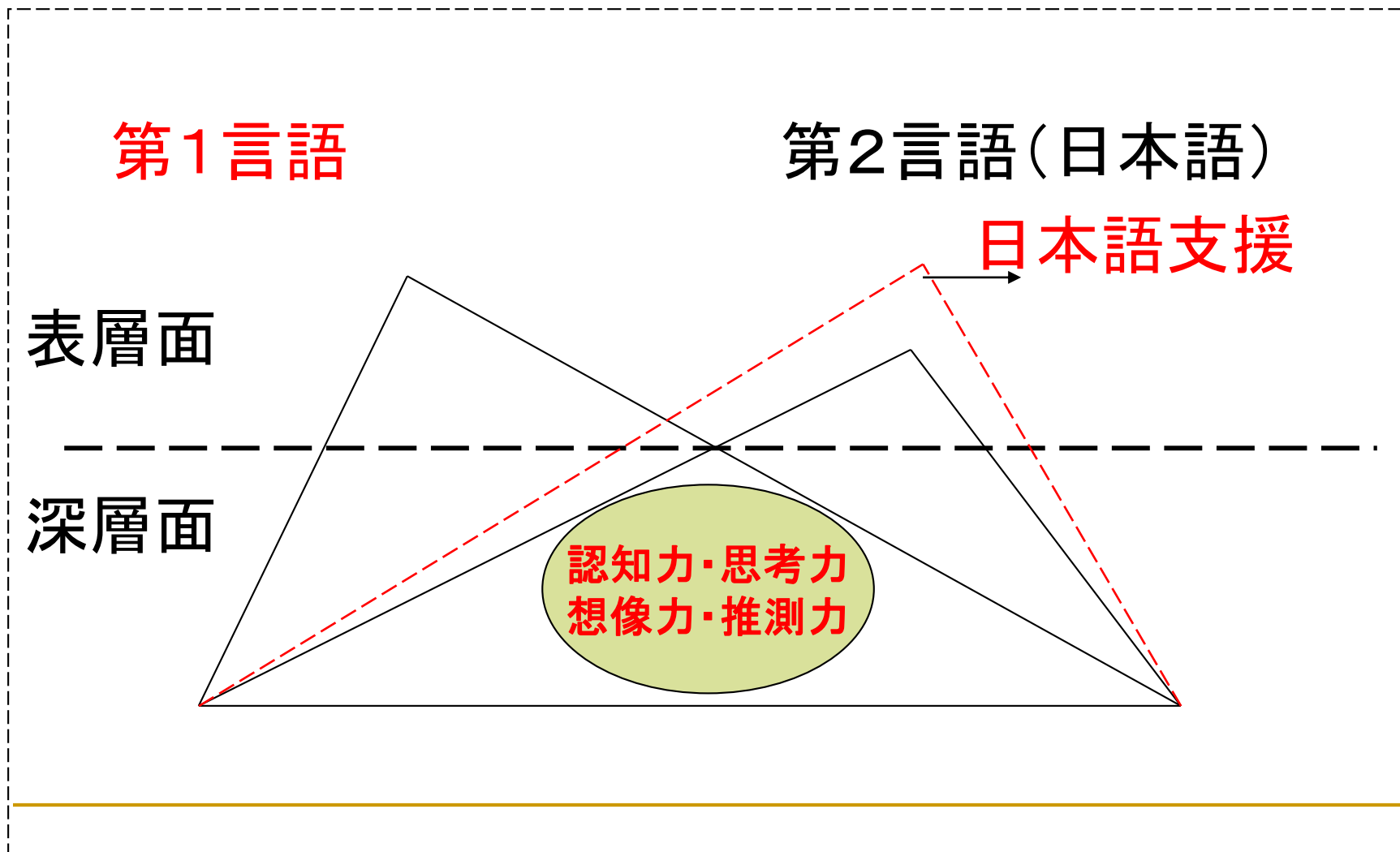
Bloom's Taxonomy

- ベンジャミン・ブルーム(1956)が
“Taxonomy of educational objectives”のなかで
提唱した「教育目標のタキソノミー(分類学)」
 - 目標の能力面を階層的に整理したもの。
 - 上位のカテゴリーは下位のカテゴリーより複雑で、
抽象的あるいは内在化された能力となっている。
-

Bloom's Taxonomy



氷山説(カミンズ)



DLA: 本冊と別冊

- 本冊(一課の構成):
 - ・「概要」
 - ・「実践ガイド」
 - ・「診断シート」
 - ・「JSL評価参照枠<技能別>」
 - 本冊(巻末資料): 次ページ
 - 別冊<読む>
-

DLAのねらい(DLA本冊:p.6)

- 日本語での日常会話はできるが、教科学習に困難を感じているCLD児童生徒対象
- その子どもたちのことばの力をとらえる
- どのような学習支援が必要かを考えるためのヒントを得る
 - ①習得の速い「聴く力」と「話す力」を使って実施する
 - ②習得に時間がかかる「読む力」と「書く力」を測定する

DLAの特徴 (p.6)

- ペーパーテストや集団テストではなく、
一対一の「対話型」

👉 母語力、年齢、入国年齢、滞在年数などによって
一人一人の力が大きくちがう

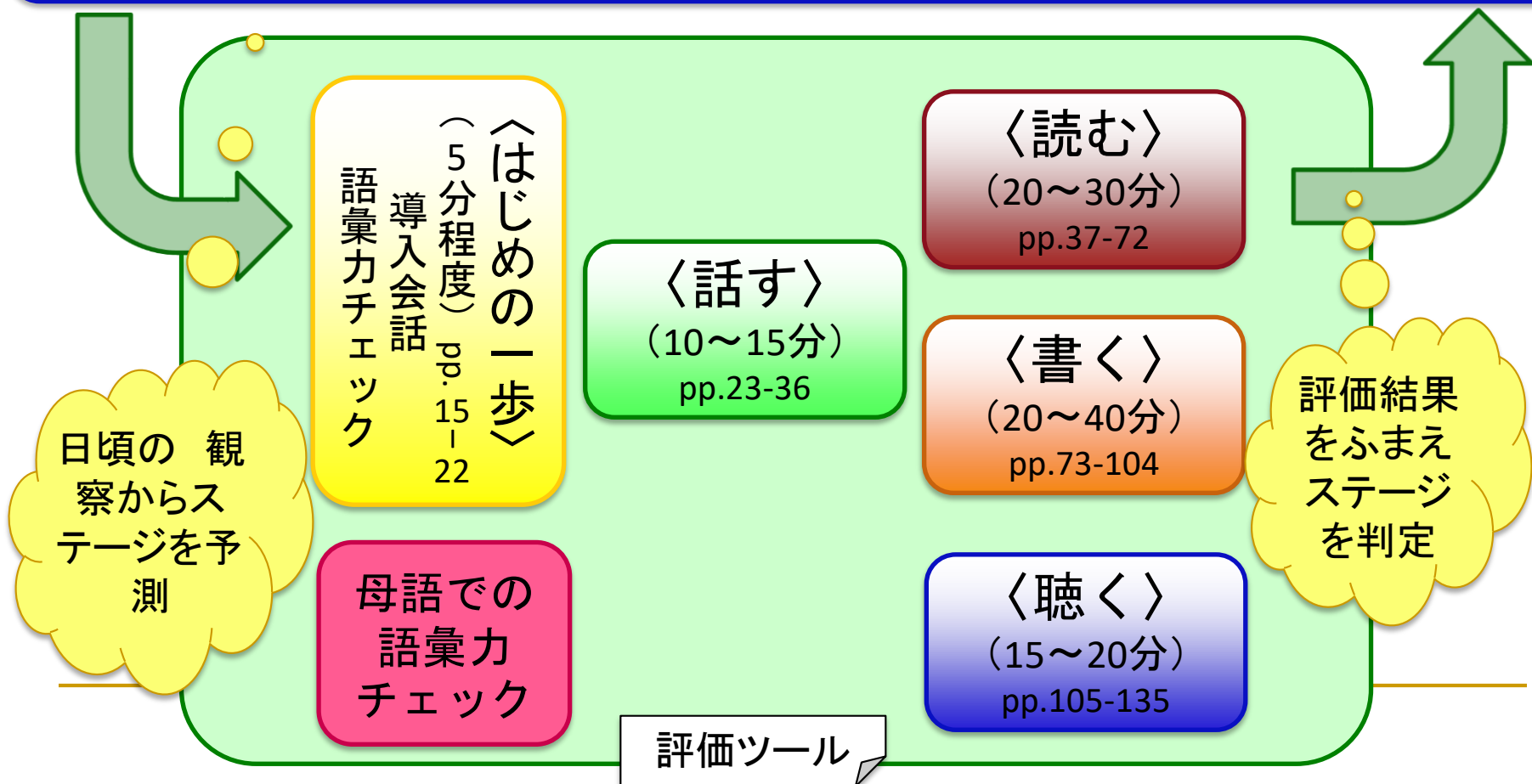
👉 一番早くのびる会話力を使って、子どもの力を引き出す

- DLAをすることそのものが
子どもにとって「学びの機会」となる

👉 DLAへの取り組みを「認め」、「待ち」、「ほめ」、
子どもの学習意欲・興味関心を高める

DLAの構造 (pp.7~12)

J S L 評価参照枠 <全体 (p. 8) > & <技能別 (p. 36, 72, 104, 135) >
日本語のレベルを1~6の「6つのステージ」であらわす。
在籍学級参加との関係で支援の段階を示す。



JSL評価参照枠＜全体＞（p.8）

ステージ	学齢期の子どもとの在籍学級参加との関係	支援の段階
6	教科内容と関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる	支援付き 自律学習 段階
5	教科内容と関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる	
4	日常的なトピックについて理解し、学級活動にある程度参加できる	個別学習 支援段階
3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる	
2	支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む	初期支援 段階
1	学校生活に必要な日本語の習得がはじまる	

日頃の観察や
評価結果からス
テージを判定
👉 指導に活かす

JSL評価参照枠＜技能別＞

(p.36,72,104,135)

ステージ	読解力	読書行動	音読行動	語彙・漢字	読書習慣・興味・態度
6	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の読み物を読んでよく理解できる	<input type="checkbox"/> より深く理解するために必要な様々な読解方略（予測・推測、関連づけ、読み返し等）を効果的に使うことができる	<input type="checkbox"/> 文や意味のまとまりに区切りながら、流暢に読める	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の語彙や漢字がよく理解できる	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の本や読み物を進んでたくさん読む習慣がある
5	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の読み物を読んで、大まかに理解できる	<input type="checkbox"/> 理解するために必要な読解方略をある程度使うことができる	<input type="checkbox"/> ややゆっくりではあるが、だいたい文や意味のまとまりに区切って、読める	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の語彙や漢字がある程度理解できる	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の本や読み物がある程度読む習慣がある
4	<input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の読み物を読んで、大まかに理解できる。	<input type="checkbox"/> 支援を得て、理解するために必要な読解方略をある程度使うことができる	<input type="checkbox"/> 安定して、文節や単語に区切って読める	<input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の語彙や漢字が理解できる	<input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の本や読み物を読む習慣がある
3	<input type="checkbox"/> 2つ（または3つ）下の年齢枠の読み物を読んで、大まかに理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、理解するために必要な読解方略を使い始める	<input type="checkbox"/> ゆっくりではあるが、だいたい文節や単語に区切って読める	<input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ（または3つ）下の年齢枠の語彙や漢字がある程度理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ（または3つ）下の年齢枠の本や読み物を読む
2	<input type="checkbox"/> 普段よく目にする身の回りの簡単な単文が理解できる	<input type="checkbox"/> 文字の読み間違いに気づく	<input type="checkbox"/> 文字習得が進む	<input type="checkbox"/> 身の回りの語彙を聞く、または、読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、興味のある読み物や身の回りの書かれたものを読むとする
1	<input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> 文字と音との対応ができる	<input type="checkbox"/> 文字習得がはじまる	<input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を聞く、または、読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> ごく短い読み物や書かれたものに興味を示す

日頃の観察や
評価結果からス
テージを判定
➡ 指導に活かす

* 年齢枠と読み物のレベルとの関係は、本章5節 の【テキストの対象年齢】を参照してください。

DLAの実践2

実践ガイド(p.18～,28～,42～,80～,111～)

実践ガイド「導入会話」

導入会話

① 初対面のあいさつ：



こんにちは。私は、(自己紹介)です。

② 説明：これからすることを子どものやる気が増すように楽しく説明する。



「これから、〇〇さん/くんが日本語でどのくらいお話ができるか知りたいです。わかることは何でも話してください。わからないときは、「わかりません」と言ってください。いいですか」

③ 質問：

・次の順番で質問を進める。



- ① 「名前を教えてください/名前は何かですか」
- ② 「何年生ですか」
- ③ 「何歳ですか/いくつですか」
- ④ 「誕生日はいつですか」
- ⑤ 「お兄さん/お姉さん(弟・妹)がいますか」

・兄弟姉妹については、個々の子どもの状況や家族構成などに応じて柔軟に対応する。



- ⑥ 「友だちがいますか」
- ⑦ 「友だちの名前を教えてください」
- ⑧ 「友だちとどんなことをして遊びますか」

「実践ガイド」に書かれた通りに発話する

DLAの評価1

診断シート(p.31～,63～,96～,128)

診断シート W 1 「動物」

名前： _____ (男・女) 学年(所属)： _____ 年 月 日

字数： _____ 時間： _____ 分

- ・子どもの作文を見て、あてはまる評価点(5・3・1)に○をつける。
中間を選択し、2点、4点をつけてもよい。
- 評価基準■ 5：とてもよい 3：ふつう 1：もう少し

内容			
1	内容の豊かさ	くわしく書ける	5 3 1
語彙・漢字力			
2	語彙の多様性	いろいろな語彙を使って書ける	5 3 1
書字力・表記ルール			
3	ひらがな	拗音,促音,長音などが正しく書ける	5 3 1
4	カタカナ語	カタカナ語が書ける	5 3 1
書く態度			
5	意欲と取り組み方	積極的に取り組める	5 3 1
6	書く前の準備	絵を描いたり、書くことを考えたり相談したりしてから書き始める	5 3 1
総合評価			
備考(母語の状況)		総合得点	点
		平均点	点
		/6 ⇒	点

録音したもののや子どもが書いたものをもとに、「観点別」の評価を記入する。

DLAの評価2

JSL評価参照枠<技能別> (p.36,72,104,135)

ステージ	読解力	読書行動	音読行動	語彙・漢字	読書習慣・興味・態度
6	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の読み物を読んでよく理解できる	<input type="checkbox"/> より深く理解するために必要な様々な読解方略（予測・推測、関連づけ、読み返し等）を効果的に使うことができる	<input type="checkbox"/> 文や意味のまとまりに区切りながら、流暢に読める	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の語彙や漢字がよく理解できる	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の本や読み物を進んでたくさん読む習慣がある
5	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の読み物を読んで、大まかに理解できる	<input type="checkbox"/> 理解するために必要な読解方略をある程度使うことができる	<input type="checkbox"/> ややゆっくりではあるが、だいたい文や意味のまとまりに区切って、読める	<input type="checkbox"/> 年齢枠相応の語彙や漢字がある程度理解できる	
4	<input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の読み物を読んで、大まかに理解できる。	<input type="checkbox"/> 支援を得て、理解するために必要な読解方略をある程度使うことができる	<input type="checkbox"/> 安定して、文節や単語に区切って読める	<input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の語彙や漢字が理解できる	
3	<input type="checkbox"/> 2つ（または3つ）下の年齢枠の読み物を読んで、大まかに理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、理解するために必要な読解方略を使い始める	<input type="checkbox"/> ゆっくりではあるが、だいたい文節や単語に区切って読める	<input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ（または3つ）下の年齢枠の語彙や漢字がある程度理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ（または3つ）下の年齢枠の本や読み物を読む
2	<input type="checkbox"/> 普段よく目にする身の回りの簡単な単文が理解できる	<input type="checkbox"/> 文字の読み間違いに気づく	<input type="checkbox"/> 文字習得が進む	<input type="checkbox"/> 身の回りの語彙を聞く、または、読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> 支援を得て、興味のある読み物や身の回りの書かれたものを読むとする
1	<input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> 文字と音との対応ができる	<input type="checkbox"/> 文字習得がはじまる	<input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を聞く、または、読んで、理解できる	<input type="checkbox"/> ごく短い読み物や書かれたものに興味を示す

実施したタスクのレベルと、診断シートの結果をもとに、JSL評価参照枠でステージを検討する

* 年齢枠と読み物のレベルとの関係は、本章5節の【テキストの対象年齢】を参照してください。

DLAの記録 1 : 実施レポート (p.139)

名前： _____ (男・女) 年齢 (学年)： _____ 母語： _____

入国年齢： _____ 滞在年数： _____ 記録日： _____ 年 月 日 記録者： _____

実施したものに○をつけ、得点 (平均点) を記入してください。

語彙力チェック	日本語	% (/55)	母語	% (/55)
DLA 〈話す〉	実施タスク	基礎タスク () 対話タスク () 認知タスク ()		
	得点			
DLA 〈読む〉	実施テキスト	A ・ B ・ C1 ・ C2 ・ D ・ E ・ F		
	得点			
DLA 〈書く〉	実施課題	W1 ・ W2 ・ W3 ・ W4 ・ W5 ・ W6 ・ W7 ・ W8		
	得点			
DLA 〈聴く〉	実施DVD	A1 ・ A2 ・ A3 ・ B4 ・ B5 ・ B6 ・ B7 ・ B8		
	得点			

DLAの記録 2 : DLA採点表<全体> (p.140)

下の表の該当するステージに○を記入してください。

ステージ	DLA <話す>					DLA <読む>					DLA <書く>			DLA <聴く>		JSL評価参照枠<全体>	支援の段階										
	話の内容とまとめ	文・段落の質	文法的正確度	語彙	発音・流暢さ	話す態度	総合	読解力	読書行動	音読行動	語彙・漢字	読書習慣・興味・態度	総合	内容	構成			文の質・正確度	語彙・漢字力	書字力・表記ルール	書く態度	総合	聴解力	聴解行動	語彙・表現	総合	
6																											
5																											支援付き 自律学習 段階
4																											個別学習 支援段階
3																											
2																											初期支援 段階
1																											

実施したタスクの
診断シートの結果十日
頃の観察から、JSL評
価参照枠でステージを
検討する

DLAの使用方法

- どこで
 - 学校
 - 地域
- いつ
 - 入学時（1年生）
 - 編入時
 - 各技能の評価を年に1度実施
- だれが
 - 教員
 - 学習支援者

DLAの活用法

- 行政一支援必要児の数と支援の質の把握
学校
教育委員会
- 指導上のヒントに関する情報を共有
担当指導者
在籍学級担任教師
その他の教員
- 保護者、地域支援者と情報を一部共有
- 転校時の伝達情報として

DLAにおける「対話」の役割 ①

- 評価者は、問題解決過程をただ傍観するのではなく、児童生徒と共にパフォーマンスに参加(対話)することになる。
- 評価者は、児童生徒が問題を解決する過程に携わり、その過程を明らかにしながら、助言やヒントを与えるという「対話」を用いて介入する。

DLAにおける「対話」の役割 ②

- 評価者は、パフォーマンスに介入することによって、児童生徒がどこでつまづいているか発見し、児童生徒に今必要なフィードバックは何かを判断しながら助言を継続する。
- 助言への児童生徒の反応を見ながら「対話」を調整していく参加者となる。
- 児童生徒も、介入に応答することによって「わかった」「わからない」(言語的・非言語的)など評価者の反応から、学びを作り出している。

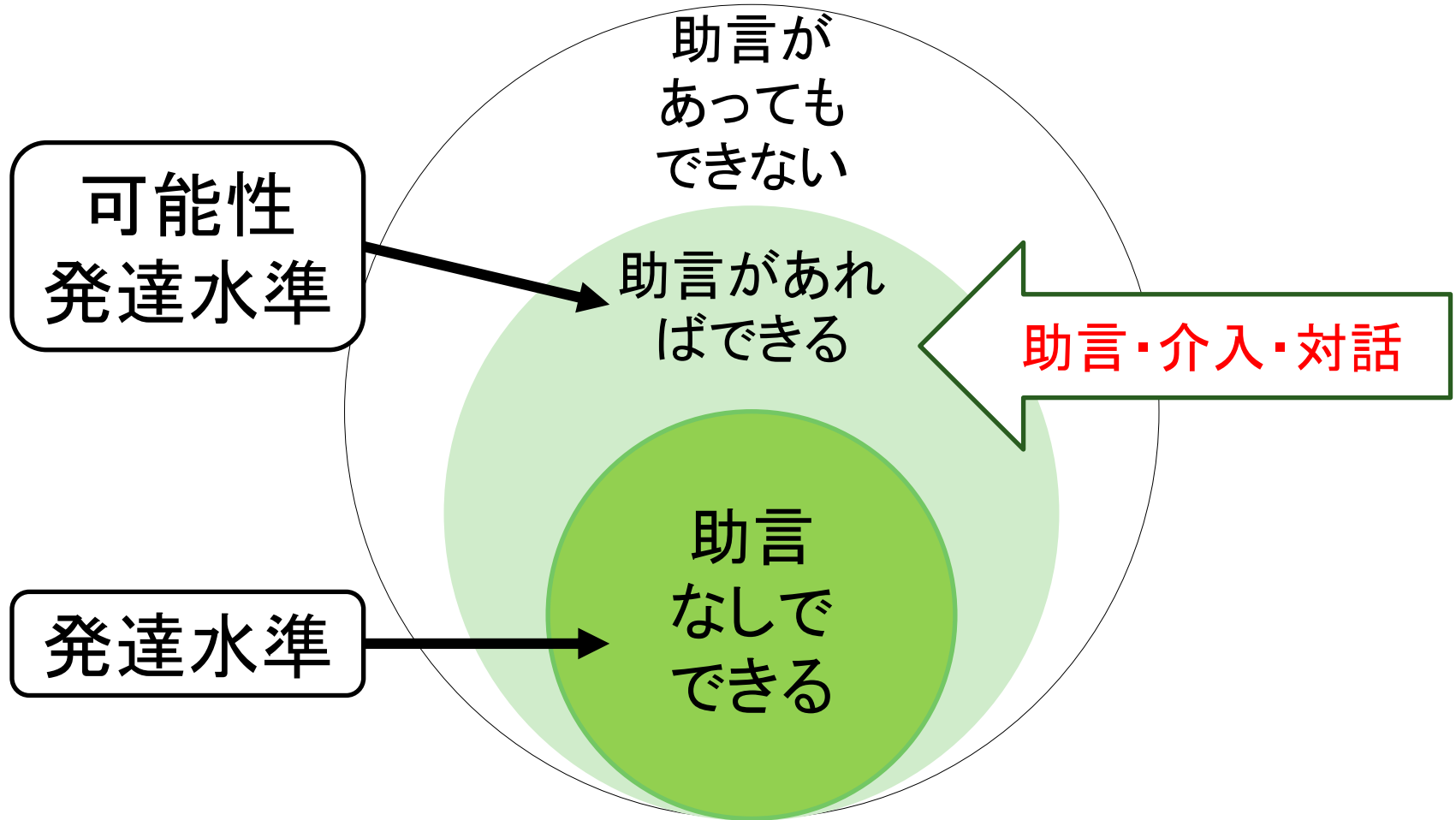
ヴィゴツキー「発達の最近接領域」 ①

ZPD: Zone of Proximal Development

- 「発達の最近接領域」とは、子どもの現下の**発達水準**と**可能性発達水準**とのあいだの「へだたり」である。
- 自力で解決する問題によって規定される前者と、指導者に指導されたり自分よりもできる仲間との共同で児童生徒が解く問題によって規定される後者との「へだたり」。

ヴィゴツキー「発達の最近接領域」 ②

<イメージ>



教師が行う「介入」行為とは ①

- 児童生徒が行っている推論(考え)を探ること。
- 計画を立てることを助けること。
- 課題に関連した特質に注意を引きつけること。
- 児童生徒がしたことや考えたこと、決めたりしたことを思い出すきっかけやヒントを与えること。

教師が行う「介入」行為とは ②

- 参加を維持すること。(注意して聞く・待つこと)
- 類似した課題、あるいは以前に実施した課題とのつながりをつくること。
- フィードバック(情報やアイデア)を提供すること。
- 行為の再考を促すこと。社会的・認知的な過程が続くように十分介入すること。

ダイナミック・アセスメント ①

- 既にあるものの状態を測定し、評価中にフィードバックを与えない、従来型のテストとは異なる。
- ダイナミック・アセスメントは、徐々に難易の異なる課題を連続的に提示(介入)して、児童生徒の力を引き出す教授や援助をする。
- 同時に、児童生徒の思考過程(潜在能力)を把握する。

ダイナミック・アセスメント ②

- 児童生徒の思考過程（潜在能力）を明らかにするための介入によって、児童生徒の発達（変化）を促進させる。
- 併せて、指導方法のヒントを得る。
- パフォーマンス等の評価を行いながら指導するので、「ダイナミック」なものになる。
- 学習の成果または過程だけでなく、学習可能性の測定を試みる一手法。

ダイナミック・アセスメントとしての役割

- 潜在的な能力と発達した能力との差、つまり、発達した能力が潜在的な能力をどれくらい反映するのかに焦点をあてる。



- DLAでは、**評価者がどんな介入、すなわち助言**における「ことば」をどのように使い、「やりとり」をどのように行うかが重要になる。

主な参考文献

- Cummins, J. (1996/2001). *Negotiating Identities: Education for Empowerment in a Diverse Society*. Los Angeles: California Association for Bilingual Education.
- 中島和子(2010) 編著「マルチリンガル教育への招待—言語資源としての日本人・外国人年少者」ひつじ書房
- ブルーム、B.S.他(梶田叡一、渋谷憲一、藤田恵璽訳)(1973)『教育評価法ハンドブック—教科学習の形成的評価と総括的評価』第一法規出版
- ヴィゴツキー(柴田義松訳)(2001)『新訳版 思考と言語』新読書社
- 文部科学省初等中等教育局国際教育課(2013)『外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメント: DLA』